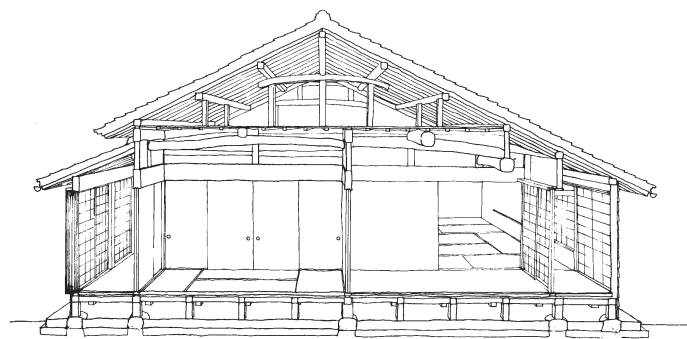


古民家スタイル

No.17 Contents 01

Cover Photo/Taro Makimura
Cover Design/Toshio Wakayama



6 過去を未来につなぐ仕事人インタビュー

自由工房静岡事務所 / 石田正年

29 古民家再生

- 01. 山梨県『山下邸』
- 02. 静岡県『もちの木のあるいえ』
- 03. 岡山県『和気の家』
- 04. 静岡県『茶畑の家』
- 05. 東京都『堀切菖蒲園の家』



65 特集 古材を使った新築&リフォーム

- 01. 静岡県『長ヶ部邸』
- 02. 山梨県『S邸 福助型民家』
- 03. 千葉県『弓道場のある家』
- 04. 埼玉県『木蓮寺の家』
- 05. 東京都『W邸』



古民家スタイル

No.17 Contents 02

91

古材パーツ カタログ

111

癒しの食事処

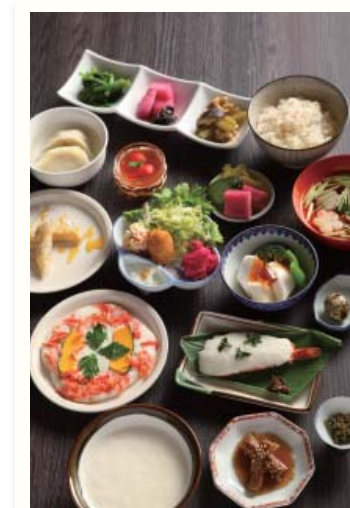
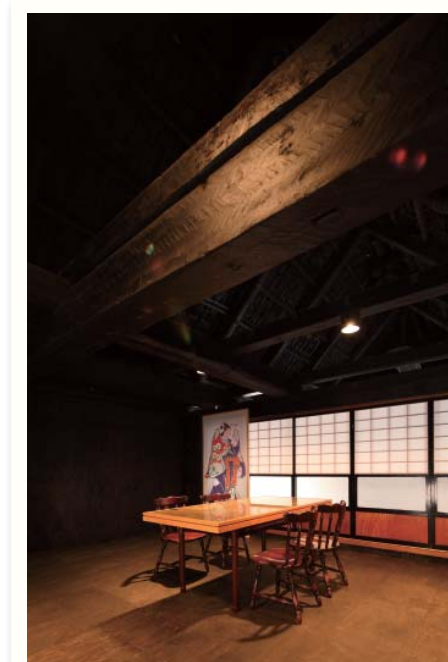
- ①福島県 / 古民家レストラン ^{どっこ}独钻
- ②奈良県 / 奈良町豆腐庵 こんどう
- ③埼玉県 / かつ吉 野庵
- ④京都府 / 京都御幸町 Restaurant CAMERON (伽芽論)
- ⑤福島県 / 花泉酒造 花泉CAFE
- ⑥京都府 / 美山粹仙庵 SAI

142 古民家相談窓口

>>>

【連載コラム】

- 10 切り絵で描く古民家。 文=久保 修
- 12 古民家を継承する模型の力 文=菅野清八
- 16 世界の古民家紀行 写真と文=長谷川和男
- 26 木工の美 写真と文=大竹静市郎
- 60 東京の伝統工芸巡り。 文=井上雅史
- 62 アカデミア通信 文=今井俊介
- 86 鬼を巡る旅 写真=大東照男 文=岡田親彦
- 88 日本の精神を照らす木造建築の世界 文=徳本栄三
- 110 にっぽんの方言 文=真田信治





1

古民家再生01

山梨県『山下邸』

よきつくり手との 出会いが再生の鍵に

設計施工 伝匠舎 株式会社石川工務所
055313212170

家

が完成したのは今年5月のこと。近隣に住んでいるご夫婦は、現在、二重生活の最中だが、ゆくゆくはこの家で暮らす予定だ。跡継ぎの事情で、82歳になる当家の長男である従兄弟から家を継ぐことになったご主人。幼少から青年期までを過ごした思い出があり「古い記憶がつかれる気がして家を壊すことはできませんでした」と話してくれた。「でも、素人なので何も分からない。縁あって石川工務所をお願いすることができましたが、この出会いがなければ再生できたかどうか分かりませんね」。ご主人は「建物を残す」以外は石川工務所の提案する計画に沿い、再生を見守った。改修工事は、増築部分の下屋をとりぞぎ、本来の母屋の大きさに戻すことから始め、すべての床と壁を一度撤去してから補強、再生を行っている。玄関ホールや各室は、建築当初の構造体を最大限有効にいかせるようできる限り広い空間を確保した。「格段に住みやすくなりましたが、大幅に変わった気がしないのが不思議です。もとの家の面影が残っています」。ご主人の家への愛着を汲みとり、配慮に満ちた再生となった。

①既存を縮小し、再生後は巾9間、奥行4間の規模に。外観デザインは、雨仕舞いを考慮して、外壁板張り部と真壁漆喰壁とのバランスに注意を払っている。16年前に葺き替えを行った屋根瓦は状態がよかったため、そのままかすこととした。②古材や建具の販売も行なう石川工務所らしく、多数のストックのなかから家に見合う立派な蔵戸を選んで設置。風格ある玄関入口となった。③既存の梁組みをいかした板張りのリビング。ダイナミックな吹き抜けが、古民家ならではの壮大な空間を際立たせている。ハイサイドライトから自然光をとり込むことで室内は十分に明るい。

古民家DATA

- 家の年齢 140年
- 家のつくり 養蚕農家
- 家の広さ 敷426坪 延64坪
- 改修の形式 現地再生
- 家族構成 大人2人

2





3



1

古民家再生05 東京都「堀切菖蒲園の家」

同潤会の分譲住宅に 込められた文化を温存

建築設計 今井俊介
アカデミア 03-6804-9484

昭 和初期に建てられた木造平屋住宅について建築家・今井さんは「おそらく木造で現存するのはこのお宅だけではないか」と話す。かつての財団法人同潤会の建築といえは鉄筋コンクリートの集合住宅が著名であるが「一部この家のような木造住宅も供給していた」のだとか。

既存の住宅は、約30年前、同敷地に別棟を建築した際に南側の一部を撤去したが、それ以外はほぼ創建当時のままの状態。初期の段階では、建て替えも検討されていたが、「ご家族の家への愛着が強いことを汲み取った今井さんは、暗い、寒い、汚いといった不便を解消したうえで、昭和初期の佇まいが残せる再生を提案。「まず構造補強をし、建物のよさがどこにあるのかを考え、歴史をつなぎ、住空間をその延長で発展させることが設計の目標となりました」。

一部の造作家具や建具は、新しい内装の一部となって昭和初期の個性を今に伝える。適切に手を入れていけば数百年はもつはず。再生という仕事は、古いものを残すのではなく、時代を超えた日本文化の豊かさを残すことだと考えています。

①既存の塀をいかした駐車スペースのスライドドア。下部を見るとわかるが、鉄骨に車輪をつけて表面に塀を設置し、手動で開閉できる仕様となっている。「施工会社の鍛冶職人が鉄骨構造を工夫してくれたので、外観の雰囲気を変えず実用的につくり替えることができました」。②東京の東エリアに奇跡的に残されていた同潤会の分譲住宅。が、築80年の老朽化はまぬがれず「床は部分的に10cm以上沈み、柱は傾き、外壁、屋根、建具はその限界状態に達していました」と今井さんは現況調査時の状態を話す。「日本建築の意匠が凝縮された玄関まわりは、既存のまま残しています」。凛とした空気感までが伝わってくるようだ。③南側の茶の間をリビングダイニングに変更。高さ2m以上の障子は、現代のスケール感に合うようあえて和のモジュール寸法からはずしている。

古民家DATA

- 家の年齢 80年
- 家のつくり 住宅
- 家の広さ 敷100坪 延25坪
- 改修の形式 現地再生
- 家族構成 大人3人





古材 利用02

山梨県『S邸 福助型民家』

地域独自の愛らしい外観をもつ自然派住宅“福助型民家”

設計 施工 伝匠舎 株式会社石川工務所
☎ 0553-32-2170

1.煙出しである突き上げ部分にベランダを設けている。伝統を現代の用途に置き換えたアイデアあふれる設計だ。
2.オリジナルの福助型民家はかなり規模が大きいため、住宅向けに左右の寸法を縮小、調整後の福助型民家は、コンパクトで非常に愛らしい形状となった。石川工務所の女性社員たちにも評判がいいのだとか。
3.屋根の形がそのまま内部形状となったユニークな空間。「お酒を飲んでゴロリと仰向けになったとき、目に入って来る梁組みは迫力がありますね」。リビングダイニングの見上げがご主人のお気に入り。今回使用した古材は、江戸時代後半建築の古民家に使われていた栗。石川工務所で販売している柱、梁、棟木など1棟分の構造材が一組になった古材キットを用いている。

DATA

家のつくり：木造2階建て
家の広さ：敷193坪 延46坪
家の形式：古材利用戸建て新築
家族構成：大人2人

甲州盆地東部に存在する大切妻突き上げ造りの民家群は、福助人形のシルエットに似ていることから福助型民家と呼ばれている。
今回、福助型を一般住宅に採用したのは、この地域には福助型民家群が多数存在する地域であり、また、大きな吹き抜けがほしいとの施主の希望を実現するにふさわしい構造だったことによる。文化財の調査、研究に携わった経験のある施主は、その意図を汲み、計画に賛同。石川工務所は、自社ストックの古材キットを用い、1階の天井高3m、2階3m、さらに1.5mと、1階床から最上部までの高さ合計7.5mもの空間をつくり出している。
メインの居住空間となる1階は、居間を中心に回遊性をもたせ、キッチンと奥様の作業スペースを配置。畳敷きの和室とご主人の書斎も確保した。2階は小屋裏部屋風の寝室とした。階段踊り場から見上げる梁組みは圧巻だ。
屋根形状がそのまま内部空間となる構造美。新築でありながら、伝統的木造建築の魅力が存分にいかされている。

